



TITLE:

【総説編】 表紙ほか

AUTHOR(S):

京都大学百年史編集委員会

---

CITATION:

京都大学百年史編集委員会. 【総説編】 表紙ほか. 京都大学百年史: 総説編 1998

ISSUE DATE:

1998-06-18

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/152998>

RIGHT:

# 京都大学百年史

総 説 編

題字 井村 裕夫

## 序 文

京都大学は、1897(明治30)年にわが国第2の帝国大学として創設された。それは明治維新に始まる近代化が軌道に乗り、学問の発展と人材の育成が急務と考えられた時期であった。そうした時代の要請により、京都大学に少し遅れて東北、九州の両帝国大学が創設され、わが国の高等教育が急速に発展することとなる。

京都という千年の歴史を持つ古都に位置し、政治、経済の中心から遠い環境につくられた京都大学は、強い自主、独立の精神を育て、学の蘊奥を極めることを目標として発展した。そして様々な分野に多くのすぐれた人材を送り出すとともに、独創性にとんだ研究を生み出し、世界にその名を知られる学問の府としての地位を築き上げた。科学の分野でのノーベル賞受賞者が、わが国では最も多いことが、そのことを端的に物語っている。

とはいえ京都大学100年の歩みは、決して平坦なものではなかった。前半のおよそ50年は帝国大学の時代であったが、わが国の近代が経験した苦悩と挫折を京都大学もまた味わわねばならなかった。大学の自治の確立、思想的弾圧に対する戦い、そして戦争による荒廃などである。後半の新制大学の時代には、世界の巨大な潮流の中で、大学もまた荒波に曝されることがしばしばあった。中でも昭和40年代の大学紛争は、大学に現在も続く大きい傷痕を残すこととなった。京都大学の100年の歴史は、20世紀という人類がはじめて経

験したこの巨大な、科学と戦争とイデオロギーの対立という時代の背景なしには、考えられないであろう。

そしていま21世紀を目前に控え、京都大学はその第2の世紀を迎えようとしている。21世紀、それは恐らく20世紀以上に科学技術は進歩するであろうが、様々な試練を人類が経験しなければならない世紀となるであろう。こうした時代に相応しい文化を、学問を、技術を人類は生み出していかなければならない。大学に課せられた責任は、益々大きくなるものと考えられる。未来を展望するためには、まず歴史をふり返らねばならない。歴史への正確な検証と認識なしには、明日を設計することは不可能であるからである。京都大学創立百周年を記念して、百年史を刊行する意義は、まさにここにある。

京都大学百年史の編集にあたっては、中央の編集委員会、更に各部局の編集委員会を組織した。編集委員長として、初代は西田龍雄教授、第2代は朝尾直弘教授に委嘱したが、朝尾教授御退官後は長尾真教授、次いで万波通彦教授が引き継がれ現在に至っている。この間各編集委員、西山伸助手、および百年史編集史料室の職員の方々には、大変な御尽力を頂いたことに深く感謝しなければならない。また全7巻にわたる出版は、財団法人京都大学後援会の御支援によるものであり、衷心より謝意を表したい。

平成9年6月18日

京都大学総長 井村 裕夫

## 序 文

京都大学創立百周年に際して『京都大学百年史』を編集・出版することが決定されたのは平成元年のことであった。その編集のために各部局からの委員で構成する百年史編集委員会がもうけられ、委員長には附属図書館長が就任することになった。編集の中心となる専門委員会の委員には9名の教官(のちに14名に増強された)、その中から編集主任には服部春彦大学院文学研究科・文学部教授が委嘱され、編集作業が行われることになった。また、この事業に関する事務は附属図書館総務課が担当することに決定された。

『京都大学百年史』の編集方針として以下の項目などが定められた。

1. 近・現代の日本の国家、社会の歩み、学術、文化、教育の発展を背景におき、かつ世界的な視野に立って、京都大学百年の歴史を記述する。
2. 京都大学の歴史をふりかえることによって、大学の現状についての認識を深め、21世紀へ向けての新しい大学像の探究にも役立ちうるものをめざす。
3. 既刊の『京都帝国大学史』(1943年刊行)および『京都大学七十年史』(1967年刊行)の続編としてではなく、可能な限り新史料の発掘につとめ、新しい視点を加味しつつ、創立前史から1997年までの歴史を一貫して叙述する。

4. 明治初年以来の教育政策と教育制度の史的展開の中に京都大学を位置づけ、旧七帝国大学など他大学との関連にも留意しながら、わが国の高等教育全体の中で京都大学が果たした役割を明らかにする。
5. 京都大学の伝統と学風を明らかにするため、創立当時の事情はもとより、大学自治の歴史の上での重要な諸事件についても詳しく述べる。また、新制大学発足前後の事情についても立ち入って論じる。
6. 教育面では入試制度やカリキュラムの変遷、学生生活の諸相、学生運動などにもスペースをさく。また、いわゆる大学の門戸開放について、従来の京都大学史が取り上げ得なかった事柄にも、さまざまな角度から言及する。
7. すでに消滅もしくは有名無実化している、たとえば尊攘堂や部局内の諸種の施設とその活動についても可能な限り取り上げ、その歴史を述べる。
8. 大学キャンパスの歴史について建築史的見地から詳述する。

『京都大学百年史』は、総説編 1 巻、部局史編 3 巻、資料編 3 巻の合計 7 巻、各巻約 1000 頁として、その内容はほぼ次のように定められた。

総説編は、京都大学全体の歴史を総括的に扱う部分で、ここでは京都大学の行政、施設、財政、学術の研究と教育の変遷、学生生活と学生運動、大学全体にかかわる重要事件、卒業生の社会的進路と活躍などについて、時代的背景と関連づけながら記述する。

部局史編は、各部局における学術研究の発展が重要なテーマとなるが、カリキュラムの変遷など教育の実際についても可能な限り言

及する。必要に応じて学科別、教室別に専門の学問の発展を述べるとともに、各部局の全体的な動向にできるだけ詳しく触れるようにする。

資料編には、開学以来の重要な法令、学内の規則、財政統計、主要な委員会の報告書、主要人事、学習カリキュラム、総長式辞、入学・在学・卒業者の統計、年表等を収めるほか、本部の事務局、学生部および各部局が保存する行政文書などもできる限り収録する。事件や紛争についても、大学の歴史にとって重要なものは載せる。

以上の方針にしたがって平成3年4月から本格的な作業が開始された。附属図書館の中に百年史編集史料室がおかれ、資料の収集が開始され、平成5年にはいって部局史編の執筆が始まった。各部局からの原稿の編集作業は百年史編集史料室で行ってきた。平成9年9月には部局史編3巻が刊行され、つづいて平成10年6月には総説編が刊行される。資料編3巻についても準備が順調に進められており、平成12年6月までに順次刊行され、10年間にわたる7巻7000頁余の『京都大学百年史』の刊行事業が終結する予定である。

大学史はかつてはその大学の顕彰のために作られることが多かったが、日本の代表的な大学として、またその中でも特別な歴史と学風を刻んできた京都大学のこれまでの歩みを、日本の歴史と他大学などの発展との関連において詳しく記述したこの『京都大学百年史』全7巻は、日本の大学史にとって大きな意義を有するものであり、日本の大学史のこれからの研究に大きな寄与をする文献となるものであると信じる。大学が有史以来といわれる大変動を迎えつつある今日、過去の歴史を振り返り、これからの方向性を考えること



は大学人にとって避けて通れないことである。多くの方々に読まれることを期待したい。

平成元年の京都大学百年史編集の発議以来今日に至るまで、編集委員長は附属図書館長の交替にしたがって、初代西田龍雄文学部教授(平成2年11月～平成4年3月)、第2代朝尾直弘文学部教授(平成4年4月～平成7年3月)、第3代長尾真大学院工学研究科教授(平成7年4月～平成9年3月)、第4代万波通彦大学院工学研究科教授(平成9年4月～)と引き継がれてきた。その中で編集主任は最初から今日まで一貫して服部春彦大学院文学研究科・文学部教授が務められ、編集の中心となる専門委員会を主宰し、百年史編集史料室の活動を指導し、百年史の編集・刊行にあたってこられた。ここに深甚なる謝意を表します。また、部局史編の執筆にあたられた部局編集委員、全学的見地からの総説編の困難な執筆にあたられた専門委員、何年にもわたって史料の収集と編集の実務作業に当たっていただいた百年史編集史料室西山伸助手、その他関係の皆様にご心から感謝いたします。

また、今回の出版は財団法人京都大学後援会の御協力によるものであり、合わせて感謝の意を表します。

平成9年6月18日

歴代の百年史編集委員長に代って

京都大学百年史編集委員会第3代委員長 長尾 真

## 凡 例

- 1 京都大学百年史は、京都大学百年史編集委員会が編集する京都大学百年の歴史であり、総説編 1 巻、部局史編 3 巻、資料編 3 巻よりなる。
- 2 総説編は、第 1 編「総説」および第 2 編「事務局・学生部・附属図書館」よりなり、第 1 編においては、明治 2 (1869) 年の含密局創立より平成 9 (1997) 年の創立百周年に至る京都大学の歴史およびその創立前史を記述し、第 2 編においては事務局、学生部、附属図書館について記述したものである。
- 3 記述については、以下の要領によった。
  - (1) 敬称・敬語は使用しない。
  - (2) 本文は常用漢字、現代仮名遣いを使用した。ただし、人名などの固有名词およびかな書きでは意味をとりにくい用語などはこの限りではない。
  - (3) 資料引用文は常用漢字を用いたが、かなづかい、送りがなは原文によった。判読できない箇所は□を用い、疑義のある箇所は〔ママ〕を付した。また、〔 〕内は引用者の注記を示す。
  - (4) 原則として和文の書名・雑誌名・新聞名等は『 』、論文名・研究題目等は「 」で表し、欧文の場合はそれぞれ“ ”、‘ ’で表記した。また、京都大学事務局所蔵の簿冊類は『 』で表記した。
  - (5) 年代の表記は、基本的に年号を用い、適宜西暦を補った。
  - (6) 総説編で多く利用した元総長木下広次に関係する書類・書翰(木下豪兒氏所蔵)は「木下広次関係文書」、元総長荒木寅三郎に関係する書類・書翰(個人蔵)は「荒木寅三郎関係文書」と表記した。

# 目 次

序 文	京都大学総長	井村裕夫
序 文	京都大学百年史編集委員会第3代委員長	長尾 真
凡 例		
図表一覧		
写真一覧		

## 第1編 総 説

### 第1章 創立前史

第1節 含密局の時代	4
第1項 理化学校の大阪移転	4
第2項 含密局と大学校構想	5
第3項 理化二学の専門教育機関としての含密局	7
1. 含密局の建物と位置	7
2. 開講への準備	8
3. 煩瑣な入学手続き	9
4. 授業の開始	10
5. 含密局改組の動き	11
6. 大阪化学所——理化学所	12
第4項 洋学校から開成所へ	15
1. 洋学校の仮設	15
2. 準備教育としての「普通学」	17
3. 大阪開成所への改組	18
4. 開成所の人びと	19
第5項 含密局時代の財政基盤	20
第6項 医学校病院の開設	21
1. 仮病院——大福寺伝習所	21
2. ハイ・レベルの医学	

第2節 中等教育政策の混迷と模索…………… 26

第1項 「学制」頒布と第四大学区第一番中学 26

1. 「学制」の中学校構想 26
2. 諸学校の統廃合と新中学 27
3. 新中学校の教育課程 28

第2項 「学制二編追加」と開明学校 29

1. 外国語学校としての開明学校 29
2. 仏語科の廃止 30
3. 理化学器械の移管 31

第3項 英語中心の大阪外国語学校 32

1. 「外国語学校教則」の改正 32
2. 土族中学校から国民的中学校へ 33

第4項 大阪英語学校への改組 33

1. 東京英語学校の登場に伴う改組 33
2. 専修科設置の動き 34
3. 学科課程の改良 35
4. 3学期制の導入と試験 36
5. 生徒数の増大と授業手伝生 37

第5項 大阪専門学校の開校 38

1. 専修科から専門学校へ 38
2. 試行錯誤の教育方針 39

第3節 官立模範学校としての大阪中学校…………… 42

第1項 中央主導の中等教育政策 42

1. 大阪中学校の開校 42
2. 「一時適宜の処置」としての転学問題 43

第2項 官立模範学校の理想と現実 44

1. 諸規則の仮定 44
2. 本校将来の要務 46

第3項 授業の実際 48

1. 首位教科目としての修身 48
2. 国書科の重視 49

3. 兵式体操の開始 50

第4項 各種の試験と成績評価 51

1. 入学試験の実際 51 2. 厳密な評価システム 52

第5項 教職員・生徒 53

1. 官立模範学校の教師たち 53 2. 外国人教師の雇用停止 54 3. 恒常的な定員不足 54

第6項 教育費問題 55

1. 学校財政の変遷 55 2. 教育環境の整備・拡充 56  
3. 授業料・寄宿舎費 57 4. 奨学制度 59

第4節 短命に終わった大学分校 ..... 62

第1項 関西大学創立をめぐる動き 62

1. 大学予備門改組との関係 62 2. 大学昇格への期待と現実 63

第2項 大学分校の開校 64

1. 仮規則による授業開始 64 2. 歓迎された大学分校 66  
3. 校舎の建設と新校地の選定 68

第5節 諸学校令体制と第三高等学校 ..... 70

第1項 「中学校令」の公布 70

1. 森文相の登場 70 2. 5学区5高等学校の設置 71

第2項 第三高等学校の開校 72

1. 新旧両制度の混在 72 2. 本校諸規則の制定 73  
3. 別課予科——予科補充の設置 74 4. 最大規模の定員と低い充足率 75 5. 本科の開設と入試制度 76  
6. 教授スタッフの充実 77

第3項 京都移転はなぜ行われたのか 78

1. 誘致運動と大阪側の対応 78 2. 移転地の選定 79

3.新校舎の規模と景観	80
第4項 学校組織の整備	81
1.医学部の設置	81
2.法学部の開設	82
第5項 学園生活の実際	83
1.「生徒称呼ノ事」	83
2.兵式修学旅行	84
3.陸上運動会の開催	85
4.壬辰会の組織	86
第6節 専門教育と予備教育をめぐる選択	89
第1項 「高等学校令」の公布	89
1.専門教育重視と第三高等学校	89
2.開校の背景	90
3.高等学校学士——得業士の称号	91
4.旧在学生の転配と分袂式	92
第2項 京都帝国大学の創設と第三高等学校	94
1.専門学科の漸次的解体	94
2.大学予科の設置	95
3.二本松学舎の新設	96
4.医学部の分離、独立	97
5.学内諸団体の盛行	98
第3項 教育費の規模と内容	99
1.学校財政——地方負担への依存	99
2.受益者負担主義の強化	101

## 第2章 京都帝国大学の創設

第1節 設立の過程と理念	106
第1項 設立の要求	106
1.第三高等中学校の京都移転と京都帝国大学	106
2.長谷川泰らの意見	107
3.九鬼隆一「京都大学条	

例」 109 4. 関西地方教育家大集会 110

第2項 設立の過程 111

1. 西園寺文相下における設立準備 111 2. 創立計画案の概要 113 3. 医科大学設置問題 114 4. 人事 116

第3項 設立の理念と期待 118

1. 創設時の文相の理念 118 2. 初代総長の理念と自負 120 3. 新聞・雑誌の期待 121

第2節 京都帝国大学の設置と4分科大学 .....123

第1項 京都帝国大学の設置 123

1. 設置に関する法令 123 2. 設置時の人事 124 3. 本学通則 126

第2項 理工科大学 133

1. 理工科大学の学科・講座 133 2. 第1回入学宣誓式と第1回卒業証書授与式 135

第3項 法科大学 137

1. 法科大学の学科・講座 137 2. 初期法科大学の特質 140

第4項 医科大学 143

1. 医科大学の学科・講座 143 2. 2つの医科大学 145

第5項 文科大学 147

1. 文科大学の学科・講座 147 2. 文科大学の特質 148

第3節 創設期の組織と施設 .....150

第1項 評議会の設置と大学財政 150

1. 評議会の設置 150 2. 大学財政 151

第2項 学位制度と大学院 153

1. 学位制度	153	2. 大学院	157
第3項 附属図書館	158		
1. 附属図書館創設の過程	158	2. 開館・尊攘堂・関西文庫協会	159
第4項 寄宿舎・運動会	161		
1. 知己の語る木下総長の思想的特質	161	2. 寄宿舎	162
3. 運動会	164		
第4節 大学自治をめぐる風景	167		
第1項 戸水事件と法科大学	167		
1. 戸水事件	167	2. 京大法科大学の対応	170
第2項 千賀博士の談話と文部省	173		
1. 千賀鶴太郎の対外政策論	173	2. 千賀の経歴と文部省の内訓	174
第3項 法科大学教授会の選挙による学長選出	176		
1. 『京都大学概覧』の記述	176	2. 分科大学長の選挙	177
3. 木下総長の辞任	179		

### 第3章 京都帝国大学の整備

第1節 岡田良平総長のもたらした波紋	182
第1項 岡田総長の就任	182
第2項 岡田総長退職事件	188
第2節 菊池大麓総長から久原躬弦総長へ	197
第1項 学内の整備	197



第2項	岡村司教授譴責事件	201
1.	河田嗣郎「自発的絶版」一件	201
2.	岡村司譴責事件	203
第3節	澤柳事件	212
第1項	澤柳総長の就任	212
第2項	事件の展開	217
第3項	奥田文相の裁定	226
第4節	山川健次郎総長から荒木寅三郎総長へ	234
第1項	山川兼任総長の就任	234
第2項	荒木総長の「公選」	239
第3項	大学改革案の登場	244
第5節	帝国大学特別会計法下の大学財政	248
第1項	帝国大学特別会計法の制定	248
第2項	大学財政の推移	252
1.	定額支出金の改定	252
2.	定額外政府支出金の臨時繰り入れ	256
3.	教授遣外問題	258
第6節	大学生生活の諸相	261
第1項	学生生活	261
1.	帝国大学と「儀礼」	261
2.	学生団体と寄宿舍	263
3.	生活事情	265
第2項	大正デモクラシーの中で	267
1.	教授・衆議院議員兼職問題	267
2.	学生政談演説事件	269
3.	佐藤丑次郎教授談話一件	273

## 第4章 京都帝国大学の拡充

### 第1節 学制改革……………278

#### 第1項 大学令・帝国大学令の改正 278

#### 第2項 総長選挙の執行 285

1. 大正8年総長選挙 285      2. 大正12年総長選挙 288

#### 第3項 学内諸制度の改正 289

1. 学年暦 289      2. 入学 290      3. 試験・授業料・奨学資金など 292      4. 大学院・学位 293      5. 学内組織 295  
6. 教授停年制 296

### 第2節 組織の拡充……………300

#### 第1項 学部の拡充・創設 300

1. 各学部拡張と経済学部独立 300      2. 農学部の創設 302

#### 第2項 研究所・研究附属施設の拡充 307

1. 演習林 307      2. 化学研究所 311      3. そのほかの附属施設 312

### 第3節 大学特別会計法下の大学財政……………316

#### 第1項 大学特別会計法の制定 316

#### 第2項 定額支出金制度の廃止 319

### 第4節 大正後期の大学生生活……………326

#### 第1項 生活の諸相 326

#### 第2項 陸軍現役将校の配属 331

第5節 学生運動と河上事件 .....335

第1項 京都学連事件 335

第2項 河上肇辞職事件 350

第3項 激化する左右の学生運動 359

1. 左翼学生運動の展開 359
2. 国家主義学生運動と血盟団事件 363

第4項 大学運営の諸側面 365

## 第5章 京都帝国大学の苦悩

第1節 瀧川事件(京大事件)の衝撃 .....374

第1項 2つの講演 374

1. 養田胸喜の講演 374
2. 瀧川幸辰の講演 378

第2項 事件の経過と結末 379

1. 第64議会の状況と瀧川の著書の発禁 379
2. 瀧川問題の表面化 381
3. 休職の発令とその前後の本学をめぐる状況 385
4. いわゆる「小西解決案」 390
5. 松井元興総長期以後の経過 391

第2節 研究・教育システムの充実 .....396

第1項 学科・講座の増設と臨時附属医学専門部の設置 396

1. 学科の増設 396
2. 講座の増設 397
3. 臨時附属医学専門部の設置 399

第2項 人文科学研究所の附置 400

1. 附置への経過 400
2. 京都の新聞の記事 402

### 第3節 非常時～戦時体制期における大学 .....404

#### 第1項 通則の改正と大学財政 404

1. 通則の改正 404
2. 大学財政 405

#### 第2項 荒木文相の帝大改革案に対する対応 408

1. 浜田総長の辞意表明と文相の改革案 408
2. 帝大改革案に対する対応 410

#### 第3項 軍事色を強める学生生活 415

1. 軍事教練の必修化 415
2. 学徒勤労動員 417

### 第4節 研究・教育体制の拡充 .....420

#### 第1項 学部・学科の創設・改組 420

1. 大学機構の改編 420
2. 工学部の学科創設・改組 421

#### 第2項 研究所の創設 422

1. 結核研究所 422
2. 工学研究所 423
3. 木材研究所 423
4. 経済学部東亜経済研究所 424

#### 第3項 実現しなかった部局新設計画 424

### 第5節 戦時体制の強化 .....426

#### 第1項 学歌・学旗の制定と紀元2600年記念行事・記念事業 426

1. 学歌・学旗の制定 426
2. 紀元2600年記念行事・記念事業 428

#### 第2項 戦時動員体制 430

1. 国民精神総動員をめぐる対応 430
2. 訓育指導班制度 431
3. 大学の「新体制」 432
4. 学友会の改組と同学会の成立 433
5. 防衛団と報国隊 434
6. 太平洋戦争開戦と在学年限短縮 436
7. 羽田総長の再任 437
8. 学生生徒国民貯蓄組合 437

- 第3項 科学研究体制 438
1. 大学制度調査会 438
  2. 科学動員 439
  3. 戦時期の研究活動 442
  4. 石川教授休職事件 444
- 第4項 学徒勤労働員と学徒出陣 445
1. 学徒勤労働員 445
  2. 学徒出陣 450
  3. 防空体制とキャンパスの変貌 455
- 第5項 戦争末期の大学 456

## 第6節 戦争終結直後の大学 .....458

- 第1項 敗戦直後の諸事件 458
1. 敗戦への対応 458
  2. 原爆調査隊員の殉職 460
  3. 羽田総長から鳥養総長へ 460
  4. 食糧難をめぐる動向 461
- 第2項 教官の復職と教職追放・公職追放 462
1. GHQの指令 462
  2. 瀧川事件の解決 462
  3. 経済学部教官の総辞職 463
  4. 教職追放 464
  5. 公職追放 465

## 第6章 京都大学の設立と拡充

### 第1節 戦後教育改革と京都大学 .....468

- 第1項 新しい高等教育を求めて 468
1. 占領軍の教育改革構想 468
  2. 日本側の対応——自主的再編の模索 469
  3. 大学の管理・運営をめぐる諸問題 474
- 第2項 新制京都大学の発足 476

- 1.認可申請から開校まで 476      2.門戸開放——入学資格の拡大 480      3.難産した教養課程 484      4.教育学部の新設 488      5.医学教育における試行錯誤 491

### 第3項 新制大学院と学位 493

- 1.大学院の目的・性格をめぐる議論 493      2.「大学院設置基準」の制定 496      3.京都大学大学院の発足 498

### 第4項 研究体制の再編・組織 500

- 1.軍事科学の停止と総合研究体制 500      2.研究所の統・廃合と新設 502      3.行政監察とそれへの反論 504

## 第2節 管理運営・財政等の制度改革 .....509

### 第1項 京都大学の管理運営制度 509

- 1.管理運営における民主化要求 509      2.通則・諸規程の制定 515      3.事務機構の再編・組織 517

### 第2項 一般会計時代の大学財政 519

- 1.「学校特別会計法」の廃止 519      2.研究・教育費の絶対的貧困 521      3.貧弱なキャンパスと施設 524

## 第3節 大学民主化への道程 .....528

### 第1項 大学の拡張・社会化 528

- 1.社会教育への期待と大学 528      2.開放講座の盛行 529      3.国際交流の再開 534

### 第2項 戦後民主主義と学園生活 538

- 1.学内諸団体の消長 538      2.戦後インフレと学生生活 544      3.学生運動の高揚 546

## 第4節 新制京都大学の拡充 .....552

## 第1項 新制京都大学の整備 552

1. 新制大学院の開設 552
2. 諸規程の整備 554
3. 瀧川幸辰総長の告辞 557
4. 分校から教養部へ 563

## 第2項 科学技術振興と自然科学系学部 of 拡充 565

1. 科学技術教育の振興 565
2. 理工系学部における学科・講座の新設 570
3. 工業教員養成所の設置 571
4. ウイルス研究所と薬学部の新設 573

## 第3項 海外学術調査と研究所等の新設 576

1. 海外学術探検と学術調査 576
2. 相次ぐ附置研究所の創設 580
3. 新たな大学院政令と講座・研究部門名の改廃 585

## 第4項 高度成長下の京都大学 588

1. 大学財政の推移——一般会計から再び特別会計へ 588
2. 諸規程の改正と事務機構の拡充 590
3. 学生運動と学園生活 592

# 第7章 京都大学の再編と発展

## 第1節 大学紛争とその余波 .....598

### 第1項 昭和43年の状況 598

1. 全国的動向 598
2. 医学部の紛争 600

### 第2項 昭和44年の紛争 603

1. 京大紛争の勃発 603
2. 学生部封鎖の解除 604
3. 紛争の全学への拡大 607
4. 学外入試の実施へ 610
5. 新学期における学内の状況 612
6. 大学立法への反対行動 614
7. 大学改革への取り組み 618
8. 大学立法の成立と紛争の継続 621
9. 警察力の導入による全学封

鎖解除 622      10.授業再開への道のり 624

第3項 紛争期における改革への取り組み 628

- 1.評議会あり方検討委員会の設置 628      2.教養部と学部・大学院における教育改革 629      3.部局の管理運営体制の「民主化」 631      4.大学問題検討委員会の活動 635

第4項 昭和45～48年の学内情勢 638

- 1.紛争の長期化 638      2.昭和47年の学内問題 643
- 3.竹本処分反対運動 651      4.総長選挙基準の改正 652

第5項 竹本処分問題 654

- 1.処分の上申と評議会審査の開始 654      2.審査の休止と学内の状況 656      3.再開後の審査の経過 657
- 4.審査の再開と処分反対運動の激化 659

第6項 創立70周年記念事業の終了 662

第2節 教育・研究体制の再編と拡充 .....665

第1項 昭和53年度以降の京都大学の概況 665

第2項 大学財政の推移 671

第3項 講座数、研究部門数の変遷 675

第4項 学部の改組と拡充 679

第5項 附置研究所の改組と拡充 682

第6項 教育研究施設および医療技術短期大学部の新設と拡充 686

第7項 教養部改組の検討と総合人間学部の設置 692

第8項 大学院の改革 696

- 1.大学院制度検討委員会の活動 696      2.大学院審議会制規等専門委員会の設置 699      3.大学院人間・環境学研究科の設置 700



### 第3節 教育・研究条件の改善と整備 .....703

#### 第1項 環境保全問題 703

#### 第2項 学内交通規制の強化 706

#### 第3項 教職員定員削減問題 710

#### 第4項 将来計画とキャンパス問題 713

1. 将来計画検討委員会 713
2. 将来構想検討委員会 715

#### 第5項 学術情報システムの整備 718

1. 学術情報システム整備への動き 718
2. 統合情報通信システムの整備 720

### 第4節 開かれた大学へ .....722

#### 第1項 国際交流の進展 722

1. 国際交流委員会の設置 722
2. 大学間学術交流協定 723
3. 留学生センターの設置 725
4. 人物交流 726
5. 学生交流 728
6. 名誉博士の称号授与 730

#### 第2項 社会との連携 731

1. 公開講座、公開講演会、公開展示等 731
2. 寄附講座の設置 732
3. 社会人の受け入れ 733

### 第5節 学部入学試験制度の改革 .....736

#### 第1項 共通第1次学力試験の実施と入試期日の一本化 736

#### 第2項 受験機会の複数化 739

### 第6節 学生の動向 .....744

#### 第1項 入学定員および入学者数の変動 744

第2項 学生の生活状況と卒業後の進路 749

- 1.生活状況 749      2.就職・進学状況 752

第3項 学寮問題 755

第7節 京都大学の改革と創立百周年 .....763

第1項 大学設置基準の大綱化と一般教育の改革 763

- 1.教育課程等特別委員会の設置 763      2.全学共通科目  
の開設 765

第2項 大学院重点化の進行 767

第3項 独立研究科、附置研究所、研究センター等の新設と  
改組 774

第4項 京都大学創立百周年記念事業 777

- 1.創立百周年記念事業委員会の設置 777      2.記念事業  
の内容 779      3.記念事業の実施状況 780

## 第8章 京都大学キャンパスと建築の百年

第1節 京都大学キャンパス以前

——吉田と周辺地域の自然・歴史・文化 .....786

第1項 原始・縄文・弥生・古墳時代 787

- 1.京都盆地・神楽岡・吉田野・白河・鴨川 787      2.集落  
と生活 788

第2項 古 代 790

- 1.神楽岡 790      2.古代の寺院と神社 791      3.山荘・邸  
宅・葬所 791

第3項 中 世 793

1. 白河の変容 793
2. 吉田神社 793

#### 第4項 近 世 795

1. 百万遍知恩寺の移転 795
2. 吉田神社と吉田村、白川道 796

#### 第5項 幕末・維新时期 797

1. 幕末・維新期の吉田村周辺 797
2. 尾張藩屋敷と吉田神社 798

### 第2節 第三高等学校キャンパスの誕生

——第Ⅰ期・明治20(1887)年～明治30(1897)年……801

#### 第1項 第三高等学校の京都移転 801

1. 新校舎の建設地 801
2. 新校舎 803

#### 第2項 キャンパスを形成した人々(1) 806

#### 第3項 周辺地域の変貌 807

### 第3節 京都帝国大学キャンパスの創成

——第Ⅱ期・明治30(1897)年～大正7(1918)年……809

#### 第1項 新校舎の建築計画と新築工事 810

1. 京都帝国大学(本部地区) 810
2. 医科大学(医学部地区) 815
3. 医科大学附属医院(病院東・西地区) 816
4. 第三高等学校二本松学舎(南部地区、旧教養部地区) 817

#### 第2項 キャンパスの拡充 821

1. 本部地区 823
2. 医科大学および附属医院 825
3. 第三高等学校二本松学舎 826

#### 第3項 キャンパスを形成した人々(2) 828

1. 真水英夫 828
2. 山本治兵衛 829
3. 永瀬狂三 829

第4項 周辺地域の変貌 832

第4節 京都帝国大学キャンパスの拡大と充実

——第Ⅲ期・大正8(1919)年～昭和4(1929)年……834

第1項 キャンパスの拡大——北部地区 835

1. 理学部 835      2. 農学部 838

第2項 キャンパスの充実 839

1. 本部地区 839      2. 医学部地区 841      3. 病院地区 842  
4. 南部地区(旧第三高等学校二本松学舎) 842

第3項 キャンパスを形成した人々(3) 845

第5節 京都帝国大学キャンパスの整備

——第Ⅳ期・昭和5(1930)年～昭和21(1946)年……848

第1項 キャンパスの整備 849

1. 本部地区 849      2. 医学部地区 854      3. 病院地区 856  
4. 北部地区 858      5. 南部地区 860      6. 西部地区、その他の地区の変遷 861

第2項 キャンパスを形成した人々(4) 865

第3項 周辺地域の発展 869

第6節 京都大学キャンパスの全面的再開発

——第Ⅴ期・昭和22(1947)年～昭和47(1972)年……872

第1項 新制大学の発足とキャンパスの整備 873

第2項 高度経済成長と再開発 874

1. 本部地区 874      2. 医学部地区 876      3. 病院地区 877  
4. 北部地区 878      5. 南部地区 879      6. 西部地区 879  
7. 薬学部地区 882      8. 宇治地区 882

第7節 京都大学キャンパスの再編と保全  
——第VI期・昭和48(1973)年～昭和60(1985)年……884

第1項 地域社会とキャンパス 885

1. 鴨東・東山の自然と歴史の保全 885
2. 歴史的建築物の調査と保存 886

第2項 キャンパスの整備 890

1. 本部地区 890
2. 医学部地区 890
3. 病院地区 891
4. 北部地区 891
5. 南部地区 892
6. 西部地区 892
7. 薬学部地区 892
8. 宇治地区 893

第8節 京都大学キャンパスの現在と未来  
——第VII期・昭和61(1986)年～平成9(1997)年……894

第1項 地域社会に開かれたキャンパスへ 894

1. 地域文化遺産と京都大学キャンパス 894
2. オープンなキャンパスへ 897

第2項 歴史的建築の保存と再生 900

1. 新たな保存指定 900
2. 歴史的建築の保存・修復・再生 901

第3項 キャンパスの将来構想 902

第4項 キャンパスの変容 905

第5項 歴史と未来をはらむ現在——おわりに 912

第9節 京都大学キャンパスの歴史的建造物……………914

1. 旧京都織物会社本館(東南アジア研究センター) 明治22(1889)年 914
2. 本部正門 明治26(1893)年 915
3. 旧教養部表門および門衛所 明治30(1897)年 916
4. 旧石油化学教室建物(学生部ほか) 明治30(1897)年 916
5. 解剖学教室本館標本室(医学部図書館書庫) 明治34

- (1901)年 917      6.解剖学教室実習室(解剖学組織実習室) 明治34(1901)年 918      7.解剖学教室講堂(解剖講義室) 明治35(1902)年 919      8.尊攘堂(埋蔵文化財研究センター資料室) 明治36(1903)年 919      9.文学部陳列館 大正3(1914)年 920      10.生理学教室旧研究室(医学部国際交流セミナー室) 大正3(1914)年 921
- 11.土木工学教室本館 大正6(1917)年 923      12.建築学教室本館 大正11(1922)年 924      13.農学部表門および門衛所 大正13(1924)年 925      14.事務局本館 大正14(1925)年 925      15.楽友会館 大正14(1925)年 926
- 16.農学部附属演習林旧本部事務室 昭和6(1931)年 927
- 17.清風荘 国指定名勝 928

## 第10節 キャンパスの緑地と樹木景観 .....932

### 第1項 キャンパス緑地の変遷 932

- 1.オープンスペース率と建造物率の変化 938      2.緑被率の変化 939

### 第2項 樹木景観——キャンパスにおける大径木の消長 940

- 1.大径木の消長 941      2.記念樹の消長 946

### 第3項 今後のキャンパス緑地について——調査を終えて 947

## 第2編 事務局・学生部・附属図書館

### 第1章 事務局

#### 第1節 庶務部・経理部・施設部 ..... 954

##### 第1項 京都帝国大学の創立 954

- 1.管理運営 954      2.事務組織 957      3.学務 961
- 4.財政 965      5.施設設備 971      6.式典・行事・その他 972

##### 第2項 京都帝国大学の整備 975

- 1.管理運営 975      2.事務組織 977      3.学務 981
- 4.財政 983      5.施設設備 988      6.式典・行事・その他 989

##### 第3項 京都帝国大学の拡充 992

- 1.管理運営 993      2.事務組織 994      3.学務 997
- 4.財政 1000      5.施設設備 1005      6.式典・行事・その他 1006

##### 第4項 京都帝国大学の苦悩 1009

- 1.管理運営 1009      2.事務組織 1011      3.学務 1015
- 4.財政 1019      5.施設設備 1023      6.式典・行事・その他 1024

##### 第5項 京都大学の発足と拡充 1027

- 1.管理運営 1028      2.事務組織 1030      3.学務 1035
- 4.財政 1042      5.施設設備 1049      6.式典・行事・その他 1050

##### 第6項 京都大学の再編と発展 1051

- 1.管理運営 1053      2.事務組織 1055      3.学務 1059
- 4.財政 1063      5.施設設備 1068      6.式典・行事・その他 1071

## 第2節 保健診療所 ..... 1074

### 第1項 総 記 1074

### 第2項 現 状 1081

- 1.職員 1081      2.施設 1081      3.業務 1082

### 第3項 成 果 1084

- 1.内科疾患 1085      2.外科疾患 1090      3.皮膚科疾患 1090
- 4.眼科疾患 1091      5.耳鼻咽喉科疾患 1091
- 6.歯科疾患 1092      7.精神神経疾患 1093

## 第2章 学 生 部

## 第1節 総 記 .....1096

## 第2節 時代区分による学生生活史 .....1110

### 第1項 前史——含密局から第三高等学校へ（明治2～30年） 1110

### 第2項 第1期——創立から大正7（1918）年まで（分科大学時代） 1112

- 1.明治30～39（1897～1906）年 1112      2.明治40～大正7（1907～18）年 1116

### 第3項 第2期——大正8（1919）年から昭和21（1946）年まで 1121

- 1.大正8～昭和7（1919～32）年 1121      2.昭和8～21



(1933～46)年 1129

第4項 第3期——昭和22(1947)年から昭和42(1967)年まで 1140

1. 昭和22～25(1947～50)年 1141      2. 昭和26～34(1951～59)年 1148      3. 昭和35～42(1960～67)年 1155

第5項 第4期——昭和43(1968)年から平成9(1997)年まで 1163

1. 昭和43～54(1968～79)年 1163      2. 昭和55～64(1980～89)年 1176      3. 平成元～8(1989～96)年 1185

### 第3章 附属図書館

第1節 図書館の創立……………1200

第1項 創立期における「開かれた図書館」構想 1200

第2項 図書館建設と事務機構の整備 1202

第3項 創立から10年を経て 1205

第4項 最初の図書館の完成 1208

第2節 戦争と図書館……………1211

第1項 蔵書100万冊と閲覧室全焼からの再生 1211

第2項 戦争と大学図書館 1213

第3節 図書館の新生……………1218

第1項 戦後教育改革の中で 1218

第2項 大学図書館運営理念の確立 1221

第3項 複製技術の導入と業務組織の整備 1223

第4項 2つの資料センターの設置 1224

第4節 近代化の歩み .....1228

第1項 近代化へ向けての機構改革と『京都大学附属図書館六十年史』 1228

第2項 館報『静脩』と特殊資料 HRAF 1232

第3項 京都大学図書館改善特別委員会 1235

第5節 京都大学ライブラリ・システム .....1238

第1項 『学術雑誌総合目録』の刊行と『京都大学七十年史』 1238

第2項 業務の標準化と協議会による連携強化 1242

第3項 図書館運営の近代化と日米協力 1247

第4項 『商議会専門委員会報告』と京都大学ライブラリ・システム 1249

第5項 初めてのコンピュータ技術の導入 1255

第6節 図書館新営への準備 .....1261

第1項 新営への胎動 1261

第2項 商議会各種委員会の組織化 1263

第3項 新営の基本構想 1265

第4項 検討経過とその決定 1267

第5項 昭和50年代の図書館業務 1270

第7節 仮移転 .....1275

第1項 新営工事中の移転先 1275

第2項 移転期の附属図書館と図書館職員 1277

第3項	移転期の図書館業務	1278
第4項	新図書館への再移転	1280
第8節	新生附属図書館の出発	1282
第1項	新館の完成	1282
第2項	開館後の予算	1284
第3項	図書館機能の強化	1286
	1. 学習図書館機能	1286
	2. 研究図書館機能	1287
	3. 総合図書館機能	1288
	4. 保存図書館機能	1288
第4項	工学部共通図書室の移設と化学系雑誌の集中	1289
第9節	図書館業務の機械化	1291
第1項	学術情報システムの動向と学術審議会の答申	1291
第2項	京都大学の対応	1292
第3項	図書館業務の機械化	1293
	1. 基本方針の確立	1293
	2. 地域センター館構想	1294
	3. 導入の経過	1294
	4. システムの開発体制とその経過	1296
第10節	図書館商議会	1298
第1項	館長選考規程の改正	1298
第2項	専門委員会	1299
第3項	調査研究室	1301
第11節	図書館事務組織と大学図書館の連携	1303
第1項	事務部名称の変更と事務組織の改編	1303
第2項	大学図書館の連携	1305

1. 国立大学図書館協議会 1305
2. 日米大学図書館会議と日米ワンデイセミナー 1306

## 第12節 図書館電算化の推進と目録情報のデータベース化…1308

- 第1項 電子計算機システムの充実 1308
- 第2項 OPAC と図書目録情報の遡及入力 1311
- 第3項 目録カード投棄事件 1313

## 第13節 資料の収集と保存 ……1315

- 第1項 学術図書、外国資料の受入れ 1315
- 第2項 学術雑誌の整備 1318
- 第3項 資料の保存と管理 1321
  1. 酸性紙問題 1321
  2. 資料の不用決定および廃棄手続き 1323

## 第14節 利用者サービスの展開 ……1325

- 第1項 図書館サービスの拡充と大学図書館の公開 1325
- 第2項 図書館間相互協力の発展 1326
- 第3項 完全週休2日制と休日開館 1328

## 第15節 電子図書館 ……1329

## 編集後記 1333

## 京都大学百年史編集委員会委員氏名一覧 1339

## 事務局・学生部・附属図書館編集委員会委員氏名一覧 1348

## 第1編「総説」執筆者一覧 1349

## 図表一覧

<b>第 1 編 総 説</b>		決算額(昭和 8 年度～昭和 14 年度) 405
<b>第 2 章 京都帝国大学の創設</b>		表1-5-2 昭和 8・9 年に寄付された「奨学寄付金」の一覧表 406
表1-2-1	京都帝国大学特別会計歳出決算額(明治 30 年度～明治 39 年度) 153	
表1-2-2	本学での手続きを経た学位授与者数 155	<b>第 6 章 京都大学の設立と拡充</b>
表1-2-3	東大での手続きを経た学位授与者数 156	図1-6-1 新制発足当初の事務機構 518
		表1-6-1 専任教官の旧所属 486
		表1-6-2 授業担当者の所属部局 486
<b>第 3 章 京都帝国大学の整備</b>		表1-6-3 文学部公開講座・聴講者の内訳(昭和22年 5～12月) 533
表1-3-1	明治40年度から明治42年度までの各年度決算 252	表1-6-4 卒業者と修士修了者の人数(昭和25～40年度) 594
表1-3-2	明治43年度から大正 6 年度までの各年度決算 253	表1-6-5 職員定員の推移(昭和 28～42年) 596
<b>第 4 章 京都帝国大学の拡充</b>		<b>第 7 章 京都大学の再編と発展</b>
表1-4-1	大正 7 年度から大正13年度までの各年度決算 319	表1-7-1 国立学校特別会計・京都大学歳入・歳出額の推移(昭和40～平成 8 年度) 671
表1-4-2	明治40年から大正14年までの演習林収支一覧 323	表1-7-2 人件費・物件費比率の推移(昭和40～平成 8 年度) 673
<b>第 5 章 京都帝国大学の苦悩</b>		表1-7-3 校費と施設整備費の推移
図1-5-1	国民精神総動員実践機構 430	
図1-5-2	同学生会組織図 434	
表1-5-1	京都帝国大学特別会計歳出	

	(昭和40～平成 8 年度) 673		況(医学部を除く、昭和41、 58、平成 7 年度) 753
表1-7-4	学部の講座数の変遷(昭和 40～平成 2 年度) 676	表1-7-16	大学院修了者の業種別就職 状況(昭和41、58、平成 7 年度) 755
表1-7-5	大学院独立専攻の設置経過 677		
表1-7-6	附置研究所における部門数 の変遷(昭和40～平成 2 年 度) 678	第 8 章	京都大学キャンパスと建築 の百年
表1-7-7	京都大学と一般的覚書交換 等大学間学術交流協定を締 結した外国大学(平成 9 年 5 月 1 日現在) 724	図1-8-1	京都大学キャンパス地区区 分図 785
表1-7-8	部局における学術交流協定 等締結件数(平成 9 年 5 月 1 日現在) 725	図1-8-2	洛中洛外絵図にみる吉田周 辺 796
表1-7-9	京都大学名誉博士称号授与 730	図1-8-3	名古屋市蓬左文庫蔵「吉田 御屋敷惣図」 799
表1-7-10	各学部の入学定員と入学者 数の推移(昭和40～平成 7 年度) 745	図1-8-4	第三高等学校吉田学舎建 物配置図 802
表1-7-11	修士課程の入学定員と入学 者数の推移(昭和40～平成 7 年度) 747	図1-8-5	明治41(1908)年の京都帝国 大学および第三高等学校キ ャンパス 812
表1-7-12	博士後期課程の入学定員と 入学者数の推移(昭和 40～ 平成 7 年度) 748	図1-8-6	理学部化学教室本館設計図 824
表1-7-13	学生你的生活状況(昭和58、 平成元、7 年度) 750	図1-8-7	眼科学教室本館設計図 825
表1-7-14	学部卒業者の進路状況 752	図1-8-8	大正 7 (1918)年の京都大学 キャンパス 830
表1-7-15	学部卒業者の業種別就職状 況	図1-8-9	昭和 4 (1929)年の京都大学 キャンパス 836
		図1-8-10	建築学教室本館設計図 840
		図1-8-11	昭和17(1942)年の京都大学 キャンパス 850
		図1-8-12	東方文化学院京都研究所設

	計図 862		
図1-8-13	昭和45(1970)年の京都大学 キャンパス 880	図1-8-25	大径木の直径階別本数分布 (平成7年) 945
図1-8-14	昭和63(1988)年の京都大学 キャンパス 898	表1-8-1	キャンパス建築変遷表 第 I期 805
図1-8-15	平成9(1997)年の京都大学 キャンパス 906	表1-8-2	キャンパス建築変遷表 第 II期—前半 818
図1-8-16	宇治キャンパス 908	表1-8-3	キャンパス建築変遷表 第 II期—後半 827
図1-8-17	平成9(1997)年の京都大学 キャンパス——時期区分・ 歴史的建造物の所在 910	表1-8-4	キャンパス建築変遷表 第 III期 843
図1-8-18	昭和22年の北部、本部、西 部、医学部、教養、病院お よび南部の各キャンパスの 緑地 933	表1-8-5	武田五一設計の建築意匠 846
図1-8-19	昭和42年の北部、本部、西 部、医学部、教養、病院お よび南部の各キャンパスの 緑地 934	表1-8-6	キャンパス建築変遷表 第 IV期 863
図1-8-20	昭和57年の北部、本部、西 部、医学部、教養、病院お よび南部の各キャンパスの 緑地 935	表1-8-7	大倉三郎設計の建築意匠 867
図1-8-21	平成2年の北部、本部、西 部、医学部、教養、病院お よび南部の各キャンパスの 緑地 936	表1-8-8	容積率の変遷(昭和33・47・ 60年) 885
図1-8-22	緑被率の変化 938	表1-8-9	緑地面積、オープンスペー ス面積、建造物率、緑被 率、オープンスペース率な どの推移 937
図1-8-23	平成7年における大径木の 主要樹種と本数 943	表1-8-10	平成2年と平成7年におけ る大径木の生育状況 940
図1-8-24	大径木の直径階別本数分布 (平成2年) 944	表1-8-11	大径木の本数—広葉樹およ び針葉樹 942
			第2編 事務局・学生部・ 附属図書館
			第1章 事務局
		図2-1-1	事務局組織の変遷(昭和22 ~42年) 1033

図2-1-2	昭和43年度事務局組織 1057		決算額(明治30・35年度) 968
図2-1-3	平成8年度事務局組織 1058	表2-1-7	授業料収入等(明治30・35 年度) 969
図2-1-4	保健診療所の延べ受診者数 1085	表2-1-8	授業料単価(明治30～43年 度) 969
図2-1-5	内科の延べ受診者数 1086	表2-1-9	医科大学附属医院収入(明 治32・33・35年度) 969
図2-1-6	結核の受診者の推移 1086	表2-1-10	官制定員改正一覽表(明治 40～大正7年度) 978
図2-1-7	保健診療所内科における学 生受診者の疾患分布 1087	表2-1-11	京都帝国大学特別会計決算 額(明治40・45・大正6年 度) 984
図2-1-8	保健診療所内科における職 員受診者の疾患分布 1088	表2-1-12	政府支出金(經常部、明治 40～大正7年度) 985
図2-1-9	外科の延べ受診者数 1089	表2-1-13	京都帝国大学特別会計歳入 決算額(明治40・45・大正 6年度) 985
図2-1-10	皮膚科の延べ受診者数 1090	表2-1-14	授業料収入等(明治40・45・ 大正6年度) 986
図2-1-11	眼科の延べ受診者数 1091	表2-1-15	授業料単価(明治37～大正 10年度) 986
図2-1-12	耳鼻咽喉科の延べ受診者数 1092	表2-1-16	医科大学附属医院収入(明 治40・45・大正6年度) 986
図2-1-13	齒科の延べ受診者数 1092	表2-1-17	演習林会計表(大正2～7 年度) 987
図2-1-14	精神神経科の延べ受診者数 1093	表2-1-18	官制定員改正一覽表(大正 8～昭和7年度) 994
表2-1-1	官制定員改正一覽表(明治 30～39年度) 959	表2-1-19	新旧学位令対照表 998
表2-1-2	京都帝国大学創立費 965	表2-1-20	文部省所管経費および京都 帝国大学特別会計決算額
表2-1-3	文部省所管経費および京都 帝国大学特別会計歳出決算 額(明治30・35年度) 966		
表2-1-4	文部省所管経費歳出決算額 (明治31～39年度) 967		
表2-1-5	京都帝国大学特別会計決算 額(明治30・35年度) 968		
表2-1-6	京都帝国大学特別会計歳入		



	(大正11・昭和2・7年度) 1000	表2-1-34	京都帝国大学特別会計決算 額(昭和12・17年度) 1021
表2-1-21	文部省所管経費歳出決算額 (大正11・昭和2・7年度) 1001	表2-1-35	京都帝国大学特別会計歳入 決算額(昭和12・17年度) 1021
表2-1-22	京都帝国大学特別会計決算 額(大正11・昭和2・7年度) 1001	表2-1-36	授業料収入等(昭和12・17 年度) 1022
表2-1-23	政府支出金(大正8～14年 度) 1002	表2-1-37	授業料単価(昭和4～21年 度) 1022
表2-1-24	京都帝国大学特別会計歳入 決算額(大正11・昭和2・7 年度) 1003	表2-1-38	病院収入(昭和12・17年度) 1022
表2-1-25	授業料収入等(大正11・昭 和2・7年度) 1003	表2-1-39	定員改正一覧表(昭和24～ 42年度) 1031
表2-1-26	授業料単価(大正11～昭和 18年度) 1003	表2-1-40	文部省所管一般会計、国立 学校特別会計決算額(昭和 22～42年度)および文部省 科学研究費交付金(補助金) 1042
表2-1-27	病院(患者)収入(大正11・ 昭和2・7年度) 1004	表2-1-41	文部省所管一般会計歳入決 算額(昭和22・27・32・37 年度) 1043
表2-1-28	演習林会計表(大正8～13 年度) 1004	表2-1-42	文部省所管一般会計歳出決 算額(昭和22・27・32・37・ 42年度) 1044
表2-1-29	官制定員改正一覧表(昭和 8～17年度) 1011	表2-1-43	国立学校特別会計決算額 (昭和42年度) 1045
表2-1-30	入学志願者・入学者数一覧 (昭和21年度) 1018	表2-1-44	自己収入比率の推移(昭和 22・27・32・37・42年度) 1046
表2-1-31	学位授与者数一覧表(昭和 11～20年度) 1019	表2-1-45	授業料単価(昭和22～46年 度) 1046
表2-1-32	文部省所管経費および京都 帝国大学特別会計決算額 (昭和12・17年度) 1020	表2-1-46	文部省科学研究費交付金
表2-1-33	文部省所管経費歳出決算額 (昭和12・17年度) 1020		

	(補助金)採択件数および最終報告金額(昭和 27・32・37・42年度) 1047	表2-2-2	昭和22年学生アルバイト日給統計 1142
表2-1-47	定員改正一覧表(昭和43～平成8年度) 1055	表2-2-3	京大生の支持政党(昭和34年) 1154
表2-1-48	文部省所管一般会計、国立学校特別会計決算額(昭和47～平成8年度) および文部省科学研究費交付金(補助金) 1063	表2-2-4	主たる家計支持者の職種(全学生) 1157
表2-1-49	文部省所管一般会計決算額(昭和 47・52・57・62・平成4～8年度) 1064	表2-2-5	京大生の支持政党(昭和42年) 1162
表2-1-50	国立学校特別会計決算額(昭和 47・52・57・62・平成4～8年度) 1065	表2-2-6	京大生の学資状況(昭和43～54年度) 1166
表2-1-51	授業料単価(昭和38～平成8年度) 1065	表2-2-7	昭和47年度京都大学入学者の進路決定の時期 1166
表2-1-52	文部省科学研究費補助金採択件数および最終報告金額(昭和 47・52・57・62・平成4～8年度) 1066	表2-2-8	昭和50年度京都大学入学者の大学への進学動機 1167
表2-1-53	保健診療所受診者数の推移(昭和51～平成8年度) 1083	表2-2-9	昭和54年度京都大学入学試験志願者数・受験者数・合格者数 1168
第2章 学 生 部		表2-2-10	大学職員による最近の学生のイメージ 1179
図2-2-1	学生部組織変遷図 1108	表2-2-11	学生による自分のイメージ 1179
図2-2-2	京都大学学生部各課・掛職務一覧 1186	表2-2-12	昭和61、62年度入学試験合格者の出身地 1182
表2-2-1	平成6年度学生相談室相談事例別集計 1104	表2-2-13	平成8年度学生部職員数 1187
		表2-2-14	学内公認団体 1188
		表2-2-15	11月祭統一テーマ 1190
		表2-2-16	国立大学の授業料(年額)の推移 1192
		表2-2-17	平成元年(医は昭和62年)入学の留年者数 1194
		表2-2-18	京都大学における最近の留

学生数の変遷	1195	ム概念図	1331
第3章 附属図書館		表2-3-1 図書館システム機能比較	1310
図2-3-1 京都大学附属図書館現有システム構成図	1310	表2-3-2 目録データ入力件数	1312
図2-3-2 附属図書館ホームページ	1330	表2-3-3 所蔵資料劣化状況	1322
図2-3-3 京都大学電子図書館システム		表2-3-4 不用決定処理件数	1324
		表2-3-5 新図書館利用状況	1325

# 写真一覧

## 第1編 総説

### 第8章 京都大学キャンパスと建築の百年

- 写真1-8-1 第三高等学校吉田学舎  
本校 804
- 写真1-8-2 第三高等学校吉田学舎  
化学実験場 804
- 写真1-8-3 第三高等学校吉田学舎  
物理学実験場 804
- 写真1-8-4 第三高等学校吉田学舎  
教師館 805
- 写真1-8-5 第三高等学校吉田学舎  
寄宿舎 805
- 写真1-8-6 旧京都織物会社本館  
914
- 写真1-8-7 本部正門 915
- 写真1-8-8 旧教養部表門および門衛  
所 916
- 写真1-8-9 旧石油化学教室建物(学  
生部ほか) 917
- 写真1-8-10 解剖学教室本館標本室  
(医学部図書館書庫)  
918
- 写真1-8-11 解剖学教室実習室(解剖  
学組織実習室) 918
- 写真1-8-12 解剖学教室講堂(解剖講  
義室) 919

- 写真1-8-13 尊攘堂(埋蔵文化財研究  
センター資料室) 920
- 写真1-8-14 文学部陳列館 920
- 写真1-8-15 生理学教室旧研究室(医  
学部国際交流セミナー  
室) 922
- 写真1-8-16 土木工学教室本館 923
- 写真1-8-17 建築学教室本館 924
- 写真1-8-18 農学部表門および門衛所  
925
- 写真1-8-19 事務局本館 926
- 写真1-8-20 楽友会館 927
- 写真1-8-21 農学部附属演習林旧本部  
事務室 928
- 写真1-8-22 清風荘 929

## 第2編 事務局・学生部・ 附属図書館

### 第3章 附属図書館

- 写真2-3-1 最初の閲覧室の風景  
1203
- 写真2-3-2 最初の図書館閲覧室  
1208
- 写真2-3-3 初代図書館全景 1210
- 写真2-3-4 閲覧室の火事 1212
- 写真2-3-5 第2代図書館 1219
- 写真2-3-6 附属図書館創立80周年記  
念式典 1262

写真2-3-7	蔵書印、受入番号を押印 した表題紙および隠し印 1271	写真2-3-12	日米ワンデイセミナー会 場 1307
写真2-3-8	閲覧課事務室 1272	写真2-3-13	明治期の図書原簿 1317
写真2-3-9	法経第1教室に仮設置さ れた閲覧室 1276	写真2-3-14	バックナンバーセンター 1321
写真2-3-10	附属図書館商議会(平成 8年度) 1299	写真2-3-15	入退館システムとメイン カウンター 1326
写真2-3-11	鈴鹿本今昔物語集 1300	写真2-3-16	インターネット端末 1330

# 第 1 編

## 総 説

## 第 1 章

---

# 創 立 前 史

## 第 2 章

# 京都帝国大学の創設



## 第 3 章

---

# 京都帝国大学の整備

## 第 4 章

# 京都帝国大学の拡充

## 第 5 章

---

# 京都帝国大学の苦悩

## 第 6 章

---

# 京都大学の設立と拡充

## 第 7 章

---

# 京都大学の再編と発展

## 第 8 章

---

# 京都大学キャンパスと建築の百年

第 2 編

事 務 局  
学 生 部  
附 属 図 書 館

## 第 1 章

# 事 務 局



## 第 2 章

---

# 学 生 部

## 第 3 章

---

# 附 属 図 書 館

## 編集後記

### ——『総説編』について——

『京都大学百年史』（以下『百年史』と略記）全7巻のうち、昨年9月に刊行された部局史編3巻に続いて、ここに総説編が刊行の運びとなった。『百年史』全体の編集方針と部局史編刊行までの経緯については、部局史編の編集後記に記したので、ここでは総説編の編集と刊行に関わる事柄に絞って述べておきたい。

平成2年11月7日開催の第1回京都大学百年史編集委員会において、総説編の編集と執筆の具体的作業には編集委員長、同副委員長、編集主任、専門委員から構成される専門委員会が当たることが了承された。専門委員会では西田龍雄初代編集委員長のもと、直ちに『百年史』全体の編集大綱案ならびに総説編の内容構成案の作成に取り掛かり、それらは平成3年6月4日の第2回編集委員会において承認された。総説編の内容構成と執筆者に関して決定された主要な方針は以下の通りである。

- (1) 総説編は1巻、約1,120～1,200頁とし、そこには京都大学全体の歴史を総括的に扱う第1編「総説」のほかに、第2編として事務局・学生部・附属図書館の歴史を収める。
- (2) 第1編「総説」は8章から構成し、第1章では創立前史(明治2～30年)を扱い、第2～7章では創立百周年時(平成9年6月)までの京都大学の歴史を6つの時期に区分して記述する。また第8章では大学のキャンパスと建築の百年について記述する。
- (3) 「総説」の執筆には編集主任を含めて7名の専門委員が当たる。執筆

する専門委員はそれぞれ担当する章・節の「執筆担当者または責任者」となる。また各章・節の執筆者の名前を明示する。

各章のタイトルと具体的な執筆分担についても専門委員会で原案が作成され、第2回編集委員会で承認された。その後、専門委員の交替や海外留学のために当初の執筆分担に一部変更が生じた。また、筒井清忠委員担当の第5章第4～6節については、同委員からの申し出により田中紀行奈良女子大学文学部助教授(平成10年4月1日より京都大学大学院文学研究科助教授)に「共同執筆者」という資格で執筆して頂くことになった。また専門委員会の議によって、第8章には、キャンパス内の緑地と樹木景観の変遷に関する記述を盛り込むことになり、この部分については大学院農学研究科の吉田博宣教授に「共同執筆者」として原稿執筆をお願いした。

なお、総説編の記述の時間的下限は、第1・2編を通じて平成9年6月の創立百周年時点までとし、年次的な統計数字は原則として平成8年度までのものを掲げることにした。ただし、創立百周年記念行事等に関しては平成9年6月以後の事柄にも言及した。

朝尾直弘第2代編集委員長時代の平成5年11月16日に開催された第3回編集委員会において、『百年史』全巻の刊行の順序と時期が正式に決まり、総説編は平成10年6月に刊行することになった。そこで専門委員会では、第1編「総説」の原稿締切を平成8年9月末と決めた。同委員会では、平成7年4月以降も長尾真第3代編集委員長、次いで万波通彦第4代編集委員長のもと、「総説」の執筆方針と原稿完成までの手順について論議を続けた。その結果、「総説」の執筆に当たっては、「百年史編集大綱」に示された編集方針に従うことは当然であるが、その枠内において何をどのように記述するかについては基本的に各執筆者の裁量に委ねる、また昭和42年刊行の『京都大学七十年史』の「総説」で扱われている時期についても、その成果を踏まえ

た上で、新たな視点から全面的に記述し直すということで、意見の一致を見た。ただし、全体の記述内容に大きな重複や重要事項の欠落がないことを確認するために、原稿完成前に各執筆者が担当の章・節の詳細な目次案を持ち寄って全員で検討する会を開くことにした。各執筆者から提出された原稿はそれぞれの責任による完成原稿として扱われるが、内容の調整と表記の統一をはかるために編集委員長、副委員長、編集主任と編集史料室西山伸助手の4名が全体を通読し、必要があれば執筆者に加筆修正を依頼するということになった。このような手順を踏んだ上で、平成9年10月以降、「総説」の原稿は完成したものから順に印刷にまわされた。

一方、第2編「事務局・学生部・附属図書館」に収録される原稿は、それぞれの百年史編集委員会において執筆されたが、その提出後、内容の調整、表記の統一などのために海原徹委員、西山助手と編集主任が分担して目を通し、また第1編「総説」の執筆者が各自の記述内容との突き合わせを行って不整合が存在しないかどうかを確認した。その上で発見された問題点については、それぞれの編集委員会と協議してその解決に努めた。この第2編の原稿も、平成10年1月初めにはすべて印刷に入った。多忙な本務の傍ら編集・執筆の労をとられた関係者各位に対して深い敬意を表するものである。

この総説編の編集と刊行の経緯はおよそ以上の通りであるが、全体の頁数は当初の予定をはるかに超えて1,350頁を超える大冊となった。特に第1編「総説」は、最初800頁の予定であったが、原稿執筆の過程でこの頁数では到底収まらないことが明らかとなり、最終的には約950頁へと膨れ上がるようになった。

なお、専門委員会では「総説」の原稿執筆に役立てるために、平成4年12月から平成8年3月まで11回にわたって研究会を開催し、専門委員が発表するほか、学内外から講師を招いて京都大学史上の諸問題や大学史の在り方、

また他の大学の沿革史編纂の経験などについて話を聞く機会をもった。ご多忙の中、講師を引き受けて下さった方々に厚くお礼を申し上げたい。

『百年史』の編集作業が開始されてすでに7年半が経過したが、この間、編集史料室では本学の事務局や部局から数多くの史料の提供を受けることができた。また学外から寄贈あるいは寄託を受けた貴重な個人文書もかなりの数に上っている。今後これらの史料を編集事業終了後において整理、保存し、研究・教育活動に役立ててゆく体制の確立が望まれるところである。近年、東京大学、九州大学、名古屋大学等においては、それぞれ年史編纂後に大学(史)史料室が開設され、史料の保存・公開等に加えて大学史の研究が推進されているが、本学において先の『京都大学七十年史』刊行時に収集された史料の多くがその後散逸し、ために今回、史料の収集に多大の困難を来したことを考え合わせる時、現在の百年史編集史料室の機能を引き継ぐ恒久的機関として「京都大学史史料室」が速やかに設置されることを切望するものである。

この総説編の編集に当たって聞き取りなどを含め史料の収集・閲覧の面で世話になった個人と機関は多数に上る。上述の研究会の講師としてご協力いただいた方々とともに、以下にそのお名前を記し、深い謝意を表しておきたい。

天野郁夫 石田政弘 泉孝英 伊東一義 上野弥 上横手雅敬 岡本道雄 奥田東 川合一良 川合葉子 木下豪兒 坂口昂吉 末川清 杉立義一 高木英明 竹内洋 寺崎昌男 中岡哲郎 中塚明 中村千鳥 西村豊成 速水醇一 秀村選三 廣瀬二郎 廣庭基介 藤浪みや子 前田信夫 松尾尊允 森春光 山邊時雄 渡部宗助 渡辺与五郎 京都大学新聞社 京都府立丹後郷土資料館 神戸市立博物館 国立公文書館 国立国会図書館憲政資料室 大日本報徳社 東京大学史史料室 名古屋市

蓬左文庫 読売新聞社 立命館大学図書館 立命館百年史編纂室 早稲  
田大学図書館 (五十音順、敬称略)

上記のほか、学内史料の利用に際しては、事務局諸部課ならびに学生部の  
全面的な協力を得たことを書き添えておかなければならない。

『百年史』全7巻の完成までには今後なお資料編3巻の刊行を待たなけれ  
ばならないが、取りあえずこの総説編の巻末に京都大学百年史編集委員会  
の発足から平成10年3月までの全委員の氏名を掲載しておくことにした。な  
お、現編集委員長の万波図書館長と編集主任の服部は3月末で停年退官し、  
4月からは菊池光造新図書館長(大学院経済学研究科教授)が第5代編集委員  
長に、また礪波護専門委員(大学院文学研究科教授)が編集主任に、それぞれ  
就任する。

最後に、5年間にわたり『百年史』編集の実務面を担って来られた編集史  
料室の西山伸助手に対して衷心より謝意を表したい。同氏の献身的な働きが  
なければ、部局史編に続いて総説編がこのように当初の計画通りに刊行され  
ることはあり得なかったであろう。また、編集上の様々な業務を担当して下  
さっている奥典子附属図書館専門員ならびに編集史料室非常勤室員諸氏に対  
しても深い謝意を捧げる。第一法規出版株式会社、とりわけ編集担当の南郷  
廣志氏には今回も大変お世話になった。厚くお礼を申し上げたい。

平成10年3月

京都大学百年史編集委員会編集主任 服部春彦

# 京都大学百年史編集委員会委員氏名一覧

(平成2年11月1日～平成10年3月31日)

## 委員長

文学部教授	西田 龍雄 (平成2年11月7日～平成4年3月31日)
文学部教授	朝尾 直弘 (平成4年4月1日～平成7年3月31日)
大学院工学研究科・ 工学部教授	長尾 真 (平成7年4月1日～平成9年3月31日)
大学院工学研究科・ 工学部教授	万波 通彦 (平成9年4月1日～平成10年3月31日)

## 副委員長

理学部教授	日高 敏隆 (平成2年11月7日～平成5年3月31日)
大学院工学研究科・ 工学部教授	加藤 邦男 (平成5年11月16日～)

## 編集主任

大学院文学研究科・ 文学部教授	服部 春彦 (平成2年11月7日～平成10年3月31日)
--------------------	------------------------------

## 〔1号委員〕

文学部長	朝尾 直弘 (平成2年11月1日～平成4年3月31日)
理学部長	日高 敏隆 (平成2年11月1日～平成3年3月31日)
化学研究所長	作花 濟夫 (平成2年11月1日～平成3年3月31日)
食糧科学研究所長	鬼頭 誠 (平成2年11月1日～平成3年3月31日)
東南アジア研究センター所長	矢野 暢 (平成2年11月1日～平成3年3月31日)
附属図書館長	☆西田 龍雄 (平成2年11月1日～平成4年3月31日)



医 学 部 長	井村 裕夫 (平成3年4月1日～平成3年12月15日)
木材研究所長 (平成3年4月12日より木質科学研究所長)	佐々木 光 (平成3年4月1日～平成4年3月31日)
経 済 研 究 所 長	佐和 隆光 (平成3年4月1日～平成4年3月31日)
へリオトロン核融合研究センター長	大引 得弘 (平成3年4月1日～平成4年3月31日)
生体医療工学研究センター長	筏 義人 (平成3年4月1日～平成4年3月31日)
医 学 部 長	佐々木和夫 (平成3年12月16日～平成5年3月31日)
教 育 学 部 長	岡田 渥美 (平成4年4月1日～平成6年3月31日)
人文科学研究所長	吉川 忠夫 (平成4年4月1日～平成5年3月31日)
基礎物理学研究所長	長岡 洋介 (平成4年4月1日～平成5年3月31日)
ウイルス研究所長	畑中 正一 (平成4年4月1日～平成5年3月31日)
超高層電波研究センター長	松本 紘 (平成4年4月1日～平成5年3月31日)
附 属 図 書 館 長	☆朝尾 直弘 (平成4年4月1日～平成7年3月31日)
薬 学 部 長	横山 陽 (平成5年4月1日～平成6年4月30日)
胸部疾患研究所長	泉 孝英 (平成5年4月1日～平成6年3月31日)
原子エネルギー研究所長	高橋 幹二 (平成5年4月1日～平成6年3月31日)
数理解析研究所長	荒木不二洋 (平成5年4月1日～平成6年3月31日)
アフリカ地域研究センター長	田中 二郎 (平成5年4月1日～平成6年3月31日)
法 学 部 長	鈴木 茂嗣 (平成6年4月1日～平成7年3月31日)
食糧科学研究所長	鬼頭 誠 (平成6年4月1日～平成7年3月31日)
防 災 研 究 所 長	田中 寅夫 (平成6年4月1日～平成7年3月31日)
東南アジア研究センター所長	坪内 良博 (平成6年4月1日～平成8年3月31日)
生態学研究センター長	川那部浩哉 (平成6年4月1日～平成7年3月31日)

工 学 部 長	西川 禎一 (平成6年5月1日～平成7年3月31日)
経 済 学 部 長	菊池 光造 (平成7年4月1日～平成9年3月31日)
農 学 部 長	丸山 利輔 (平成7年4月1日～平成8年3月31日)
化 学 研 究 所 長	宮本 武明 (平成7年4月1日～平成8年3月31日)
胸部疾患研究所長	人見 滋樹 (平成7年4月1日～平成8年3月31日)
経 済 研 究 所 長	佐和 隆光 (平成7年4月1日～平成8年3月31日)
附 属 図 書 館 長	☆長尾 真 (平成7年4月1日～平成9年3月31日)
理 学 部 長	鎮西 清高 (平成8年4月1日～平成9年3月31日)
人文科学研究所長	阪上 孝 (平成8年4月1日～平成9年3月31日)
原子エネルギー研 究所長 (平成8年5月 11日よりエネルギー理工 学研究所長)	東 邦夫 (平成8年4月1日～平成9年3月31日)
木質科学研究所長	栞原 正章 (平成8年4月1日～平成9年3月31日)
生体医療工学研究セ ンター長	谷 嘉明 (平成8年4月1日～平成8年6月7日)
生体医療工学研究セ ンター長	岡 正典 (平成8年6月8日～平成9年3月31日)
総 合 人 間 学 部 長	三好 郁朗 (平成9年4月1日～平成10年3月31日)
医 学 部 長	本庶 佑 (平成9年4月1日～ )
基礎物理学研究所長	益川 敏英 (平成9年4月1日～平成10年3月31日)
ウイルス研究所長	伊藤 嘉明 (平成9年4月1日～平成10年3月31日)
数理解析研究所長	齋藤 恭司 (平成9年4月1日～平成10年3月31日)
超高層電波研究セン ター長	松本 紘 (平成9年4月1日～平成10年3月31日)
附 属 図 書 館 長	☆万波 通彦 (平成9年4月1日～平成10年3月31日)

〔2号委員〕

総合人間学部（平成4年9月30日設置）

☆愛宕 元（平成4年10月1日～）

文学部

水垣 渉（平成2年11月1日～平成6年4月1日）

山口 知三（平成6年4月1日～平成8年2月16日）

池田 秀三（平成8年2月16日～）

教育学部

山崎 高哉（平成2年11月1日～）

法学部

龍田 節（平成2年11月1日～平成9年3月31日）

村松 岐夫（平成9年4月1日～）

経済学部

瀬地山 敏（平成2年11月1日～）

理学部

川那部浩哉（平成2年11月1日～平成5年4月1日）

西村 進（平成5年4月1日～平成8年3月31日）

小菅 皓二（平成8年4月1日～）

医学部

小川 和朗（平成2年11月1日～平成4年3月31日）

福井 有公（平成4年4月1日～）

薬学部

中川 照眞（平成2年11月1日～）

工学部

☆卯本 重郎（平成2年11月1日～平成3年7月1日）

☆西川 幸治（平成3年7月1日～平成5年4月1日）

☆加藤 邦男（平成5年4月1日～）

農 学 部

荒木 幹雄（平成2年11月1日～平成8年3月31日）

野田 公夫（平成8年4月1日～ ）

教 養 部（平成5年3月31日廃止）

☆足利 健亮（平成2年11月1日～平成4年10月1日）

大学院人間・環境学研究科（平成3年4月12日設置）

西村 三郎（平成3年5月10日～平成5年12月1日）

青木 伸好（平成5年12月1日～平成6年9月22日）

江島 義道（平成6年10月16日～ ）

化学研究所

大野 惇吉（平成2年11月1日～ ）

人文科学研究所

藤井 譲治（平成2年11月1日～平成6年4月1日）

富谷 至（平成6年4月1日～ ）

胸部疾患研究所

久世 文幸（平成2年11月1日～平成6年3月31日）

泉 孝英（平成6年4月1日～ ）

原子エネルギー研究所（平成8年5月11日エネルギー理工学研究所に改組）

吉川 潔（平成2年11月1日～ ）

木材研究所（平成3年4月12日木質科学研究所に名称変更）

高橋 旨象（平成2年11月1日～ ）

食糧科学研究所

浅田 浩二（平成2年11月1日～平成5年2月1日）

村田 幸作（平成5年2月1日～ ）

防災研究所

今本 博健（平成2年11月1日～ ）

基礎物理学研究所

長岡 洋介（平成2年11月1日～平成9年3月31日）

富田 憲二（平成9年4月1日～ ）

ウイルス研究所

☆畑中 正一（平成2年11月1日～平成7年3月31日）

難波雄二郎（平成7年4月1日～ ）

経済研究所

杉本 昭七（平成2年11月1日～平成8年3月31日）

岡田 章（平成8年4月1日～ ）

数理解析研究所

荒木不二洋（平成2年11月1日～平成8年3月31日）

山崎 泰郎（平成8年4月1日～平成9年3月31日）

竹井 義次（平成9年4月1日～ ）

原子炉実験所

宇津呂雄彦（平成2年11月1日～平成3年4月1日）

吉田不空雄（平成3年4月1日～平成3年7月1日）

西牧 研壯（平成3年7月1日～ ）

霊長類研究所

野上 裕生（平成2年11月1日～平成5年3月31日）

岩本 光雄（平成5年11月1日～平成6年3月31日）

杉山 幸丸（平成6年4月1日～ ）

東南アジア研究センター

☆土屋 健治（平成2年11月1日～平成7年2月27日）

山田 勇（平成7年4月1日～ ）

大型計算機センター

星野 聰（平成2年11月1日～平成7年3月31日）

岡部 寿男（平成7年4月1日～ ）

放射線生物研究センター

杉江 勝治（平成2年11月1日～平成5年3月31日）

江島 洋介（平成5年11月1日～ ）

## 超高層電波研究センター

深尾昌一郎（平成2年11月1日～）

## 生態学研究センター（平成3年4月12日設置）

川那部浩哉（平成3年5月10日～平成8年3月31日）

和田英太郎（平成8年4月1日～）

## ヘリオトロン核融合研究センター（平成8年5月11日廃止）

近藤 克己（平成2年11月1日～平成8年5月11日）

## 放射性同位元素総合センター

倉橋 和義（平成2年11月1日～）

## 環境保全センター

高月 紘（平成2年11月1日～）

## 情報処理教育センター（平成9年3月31日総合情報メディアセンターに改組）

藤井 康雄（平成2年11月1日～）

## アフリカ地域研究センター（平成8年4月1日廃止）

太田 至（平成2年11月1日～平成8年4月1日）

## 遺伝子実験施設

本庶 佑（平成2年11月1日～平成9年3月31日）

清水 章（平成9年4月1日～）

## 生体医療工学研究センター

升田利史郎（平成2年11月1日～平成6年8月1日）

谷 嘉明（平成6年8月1日～平成10年3月31日）

## 留学生センター

大東 祥孝（平成2年11月1日～平成6年3月1日）

家本 太郎（平成6年3月1日～）

## 保健管理センター

小川 隆三（平成2年11月1日～平成4年3月31日）

森下 玲児（平成4年4月1日～）

体育指導センター

井街 悠（平成2年11月1日～）

医学部附属病院

今村 貞夫（平成2年11月1日～平成9年7月31日）

三好 功峰（平成9年8月1日～）

農学部附属農場

古川 良茂（平成2年11月1日～）

農学部附属演習林

川那辺三郎（平成2年11月1日～平成8年5月11日）

竹内 典之（平成8年5月11日～）

医療技術短期大学部

高橋 清之（平成2年11月1日～平成6年11月1日）

松本 雅彦（平成6年11月1日～）

〔3号委員〕（所属は平成10年3月31日現在、または退任時）

☆宮本盛太郎（平成2年11月1日～）総合人間学部

☆服部 春彦（平成2年11月1日～平成10年3月31日）大学院文学研究科

☆礪波 護（平成2年11月1日～）大学院文学研究科

☆筒井 清忠（平成2年11月1日～）大学院文学研究科

☆村松 岐夫（平成2年11月1日～平成4年12月21日）大学院法学研究科

☆高橋 康夫（平成2年11月1日～）大学院工学研究科

☆海原 徹（平成2年11月1日～）大学院人間・環境学研究科

☆日高 敏隆（平成3年4月1日～平成5年3月31日）理学部

☆伊藤 孝夫（平成5年1月8日～）大学院法学研究科

☆西山 伸（平成5年7月1日～）大学院文学研究科

☆佐々木丞平（平成5年11月16日～）大学院文学研究科

☆伊藤 之雄（平成6年6月1日～）大学院法学研究科

☆永井 和（平成7年9月1日～）大学院文学研究科

☆高橋 秀直（平成7年9月1日～ ）大学院文学研究科

☆藤井 譲治（平成10年2月1日～ ）大学院文学研究科

☆辻本 雅史（平成10年2月1日～ ）教育学部

（☆は実行委員会委員を示す）



# 事務局・学生部・附属図書館編集委員会 委員氏名一覧

(◎は委員長または責任者)

## 事務局

[庶務部・経理部・施設部]

山田 均          舟山 逸子          貝塚 唯生          大内 忠

山本 幸三          倉本 信義

[保健診療所]

青野 充

## 学生部

唄中 達          宮崎 昭◎          竹内 克己

## 附属図書館

長尾 真◎(平成7年4月～平成9年3月)

万波 通彦◎(平成9年4月～平成10年3月)

高橋 柏          石井 保廣          吉田 哲廣          安永 勉

奥 典子          片山 淳          小山 隆義          辻 裕史

# 第1編「総説」執筆者一覧

(平成10年3月31日現在)

第1章	海原 徹 (京都大学大学院人間・環境学研究科教授)
第2章	宮本盛太郎 (京都大学総合人間学部教授)
第3章	伊藤 孝夫 (京都大学大学院法学研究科助教授)
第4章 第1～4節	伊藤 孝夫
第5節	筒井 清忠 (京都大学大学院文学研究科教授)
第5章 第1～3節	宮本盛太郎
第4～6節	筒井 清忠
	(共同執筆者：田中紀行<奈良女子大学文学部助教授>)
第6章 第1～3節	海原 徹
第4節	礪波 護 (京都大学大学院文学研究科教授)
第7章	服部 春彦 (京都大学大学院文学研究科教授)
第8章	高橋 康夫 (京都大学大学院工学研究科教授)
	(共同執筆者：吉田博宣<京都大学大学院農学研究科教授>)

---

## 京都大学百年史 総説編

---

平成10年 6 月18日 発 行

編 集 京都大学百年史編集委員会

発 行 財団法人 京都大学後援会  
京都市左京区吉田河原町15－9

印 刷 第一法規出版株式会社  
東京都港区南青山 2－11－17

---